

## 1 研究課題名

路上工作物と自動車との衝突の鑑定手法の開発

## 2 研究担当者

主研究担当者 田久保 宣晃 交通科学部交通科学第三研究室  
他研究員 4名

## 3 研究期間

平成25年4月 ～ 平成28年3月（3年計画）

## 4 研究予算

平成25年度 21,759千円  
平成26年度 28,000千円  
平成27年度 38,000千円

## 5 研究課題の背景

自動車同士の衝突については豊富な衝突実験データを元にした交通事故解析手法の知見が存在するが、自動車と路上工作物の衝突についての国内の既存の調査研究は少なく、解析手法の知見は十分ではない。また、既存の知見の多くが必ずしも新しくないので、最近の路上工作物についての検討は不足する現状にある。一方、実際に自動車が工作物に衝突するケースは、自動車の単独事故だけでなく自動車相互事故の前後に発生する場合も多い。その際、決して十分ではない知見を活用して交通事故鑑定を実施している現状であり、県警からも毎年継続して路上工作物と衝突した場合の解析手法の研究要望が寄せられていることから、当該研究を早急に実施する必要がある。

## 6 期待される成果・波及効果

本研究の成果により路上工作物と衝突した交通事故分析・鑑定の精度が向上する。その結果として、以下の効果が期待できる。

- ・ 裁判員制度に関連し、手法の科学的根拠を確立することで裁判員も納得しやすい正確な情報が提示可能。
- ・ 交通事故分析・鑑定業務に投入する人的資源の省力化。併せて、鑑定を含む捜査・公判の効率化。
- ・ 交通事故の被害者支援への貢献。
- ・ 土木分野及び自動車開発分野における被害軽減手法の提言。

## 7 関連研究の国内外の状況

国内において、自動車製造会社としては、衝突時の車体構造の安全性が検討対象である

ことから、衝突対象としての路上工作物には研究が及ばない。一方、路上工作物製造会社としては、安全基準の内容が路外逸脱防止など総合的であり、それらを満足するか否かという点に検討が留まることから、衝突対象としての路上工作物には研究が及ばない。このような背景から、国内における事故解析の視点での既存の研究例は非常に少ない。一方、海外においては、事故解析の視点で路上工作物の研究も行われているが、木製の電柱など道路環境条件が我が国と異なる面があるため、直接的に活用可能な研究例は少ない。

## 8 予定している研究交流体制

防護柵等の道路構造物の接地について所管し関連研究を実施している国土交通省道路局、国土総合研究所及び土木研究所と情報交換を密接に図りながら研究を実施する。また、関連する民間企業である自動車製造会社及び道路構造物製造会社とも情報交換を図りながら研究を実施する予定である。